

子供の事故防止・減少のために関係団体が協力して実施している米国内の取組例 (回答)

0. 調査内容

子供の事故防止・減少のために、消費者団体、製造・販売等の事業者、行政機関が二者又はそれ以上の関係者で協力し、ウェブサイトや SNS などの電子媒体を用いて行っている広報広聴活動の取組※について

※協働している団体や会議、HP やイベントを含む商品安全に関する情報提供、消費者への注意喚起、事故情報収集、その他の広報公聴活動

1. 米国の消費者の製品安全確保について

米国における製品の安全性に係る行政は、消費者製品安全法(CPSA、連邦法コード:15 U.S.C. CH.47 § § 2051-2089、1972 年施行)に基づき、1973 年に米国政府機関から独立した機関として設置された消費者製品安全委員会(CPSC)が主に担っている。

CPSC の業務は、

- ・産業界との協働による自主規制策定の支援
- ・公的な規制の策定・施行
- ・リコール情報の収集・提供
- ・製品の安全性に係る調査の実施
- ・消費者への情報提供・教育

であり、また、消費者や医療関係者、企業等から製品の危険情報に係る苦情・通報をウェブや電話により受け付け、データベース化して情報提供している。また、連邦法はすべての子供用製品に対して、CPSC が認めた第三者試験所での試験を義務付けている。

<https://www.cpsc.gov/Safety-Education/Safety-Guides/General-Information/Who-We-Are---What-We-Do-for-You>

また、各州においても消費者製品の安全性に関する様々な州法が制定されている。例えば、ニューヨーク州は子供用製品安全・リコール法(Children's Product Safety and Recall Act)により、独自の公的規制(製品規格や事故発生時の製造者・小売業者・中古販売者の対応)を定めているほか、CPSC と同様にリコール情報の収集・提供、消費者への情報提供・教育を行っている。

<https://dos.ny.gov/childrens-product-safety-and-recall-act>

ニューヨーク州のように消費者行政専門の部局を設けている州もあるが、多くは保健行政の所管部局が担当しているほか農業や消防の部局が所管している州もあり、対応は州ごとに様々である。

<https://www.cpsc.gov/About-CPSC/Contact-Information/Product-Safety-State-Contacts>

2. 事例について

	種別	主体	協働・連携団体	取組概要
①	行政機関	米国消費者製品安全委員会	小売業界団体、NPO	情報提供
②	行政機関	米国消費者製品安全委員会	製造者団体、NPO等	リコール情報の収集・提供
③	行政機関	米国消費者製品安全委員会	事業者等	注意喚起映像作成
④	行政機関	ニューヨーク州	事業者団体	情報提供
⑤	NPO	NPO法人Safe Kids Worldwide	事業者、行政機関等	イベント開催
⑥	NPO	NPO法人Kids In Danger	消費者団体、NPO	情報提供

①米国消費者製品安全委員会 (Consumer Product Safety Commission、

<https://www.cpsc.gov/>)

米国消費者製品安全委員会は、多くの消費者が玩具を購入するホリデーシーズンの前に、Retail Industry Leaders Association (小売業界団体、RILA)、Safe Kids Worldwide (NPO)、The Toy Association (NPO)、Kids in Danger (NPO) と連名で、事故への注意を呼び掛け、おもちゃの安全に関するヒントを提供し、消費者のおもちゃの安全性に対する意識向上に努めている。

<https://www.prnewswire.com/news-releases/cpsc-expands-toy-safety-collaboration-efforts-with-retail-toy-industries--safe-kids-top-toy-safety-tips-for-shoppers-this-holiday-season-300750712.html>

<https://www.cpsc.gov/Newsroom/News-Releases/2018/Dont-Play-with-Toy-Safety-CPSC-Tips-for-Safe-Gifts>

②米国消費者製品安全委員会 (同上)

米国消費者製品安全委員会は、ホームページ上にリコール商品の情報を公開している。対象年齢・分野・危険理由でソートをかけることができる。サイトをより見やすく、より報告がしやすい内容に改善するため、2019年にはパブリックヒアリングを行っている。Kids In Danger (後述、NPO) も参加し、委員会としての意見に加え、パブリックヒアリングの場で意見を言うことが難しい個人からの意見を募って、CPSC に報告している。また、Retail Industry Leaders Association (小売業界団体、RILA) の協力を得て小売業者報告プログラム (RRP) を実施し、製品に関するインシデント情報 (顧客からの苦情、消費者レビュー、不良品返品、製造物責任事件など) の報告を定期的に受けている。

<https://www.cpsc.gov/Recalls>

<https://kidsindanger.org/2019/02/cpsc-public-hearing-to-improve-safer-products-gov-website/>

<https://www.rila.org/focus-areas/legal-affairs-compliance/retailer-reporting-program>

③米国消費者製品安全委員会(同上)

米国消費者製品安全委員会は、特に被害が大きいテーマについて、特設サイトを用いて細かい注意点や防止策を示している。そのうちの一つ、Pool SAFELY (<https://www.poolsafely.gov/parents/>)では、コロナ禍で住宅用プールを利用する家庭が増える中、各種メディア(ラジオ、テレビ、印刷物、オンライン)を通じて溺死防止に関するメッセージを発信したほか、水泳の専門家、米国オリンピック選手、マイケル・フェルプス財団、米国赤十字社、Diversity in Aquatics(NPO)と協力して、自宅で安全にプールを楽しむためのビデオを作成・公開した。

<https://www.poolsafely.gov/blog/news/pool-safely-september-newsletter-campaign-launches-new-psa-highlighting-need-for-families-to-follow-water-safety-steps-all-year/>

④ニューヨーク州(<https://www.ny.gov/>)

窓のブラインド開閉用コードによる子供の事故が相次いでいたことから、10月を「全国窓まわりの安全月間」とし、窓用品のメーカー、輸入業者、小売業者により組織される協議会である The Window Covering Safety Council (WCSC)と協同して、コードによる子供の死亡事故防止のための注意喚起を行っている。

<https://dos.ny.gov/news/consumer-alert-new-york-state-division-consumer-protection-reminds-consumers-purchase-cordless>

⑤Safe Kids Worldwide(NPO 団体、<https://www.safekids.org/>)

各種情報発信やアドボカシーに取り組むほか、CPSC など 20 団体以上のスポンサーの支援・協賛を受け Child Injury Prevention Convention(PREVCON) というイベントを開催している。30 以上のワークショップが行われ、50 以上の出展者が参加している。

<https://www.safekids.org/blog/prevcon-our-child-injury-prevention-convention>

[https://www.cpsc.gov/zhT-CN/Newsroom/Public-Calendar/2017-07-28-](https://www.cpsc.gov/zhT-CN/Newsroom/Public-Calendar/2017-07-28-111500/Commissioner-Adler-Speaking-at-Safe-Kids-Worldwide-Childhood-Injury-Prevention-Convention-PREVCON)

[111500/Commissioner-Adler-Speaking-at-Safe-Kids-Worldwide-Childhood-Injury-Prevention-Convention-PREVCON](https://www.cpsc.gov/zhT-CN/Newsroom/Public-Calendar/2017-07-28-111500/Commissioner-Adler-Speaking-at-Safe-Kids-Worldwide-Childhood-Injury-Prevention-Convention-PREVCON)

<https://www.prevcon.org/wordpress/wp-content/uploads/2019/05/PREVCON-Program-2019-FULL-Program-v6.pdf>

⑥Kids In Danger(NPO、<https://kidsindanger.org/>)

米国消費者連盟(CFA、消費者団体)、US Public Interest Research Groups(NPO)と協同し、コロナ禍での家庭での危険について詳述した消費者向けガイドを作成した。コロナ禍で親が子供の世話をしながら在宅勤務をすることに伴い、よくある子供の危険について注意を促す内容。

<https://kidsindanger.org/wp-content/uploads/2020/03/Safety-Hazards-at-Home-press-release-web.pdf>

<https://kidsindanger.org/wp-content/uploads/2020/03/Protecting-Children-While-Sheltering-in-Place.pdf>

3. 参考

米国消費者製品安全委員会は、年に一度パブリックヒアリングを開催しており、口頭・書面を通じて製品事故関係政策に関する意見を聴取している。なお、2022年4月にはオンラインで開催されており、Kids in Danger 等の NPO も参加している。

<https://www.cpsc.gov/Newsroom/Public-Calendar/2022-04-27-100000/Public-Hearing-CPSC-Agenda-and-Priorities-for-Fiscal-Years-2023-and-2024>

<https://www.cpsc.gov/Newsroom/Public-Calendar/2021-04-07-100000/Public-Hearing-CPSC-Agenda-and-Priorities-for-Fiscal-Year-2022#:~:text=The%20U.S.%20Consumer%20Product%20Safety%20Commission%20%28CPSC%29%20will,CPSC%27s%20agenda%20and%20priorities%20for%20fiscal%20year%202022.>